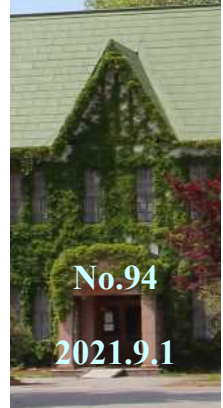


りんご研究所ニュース



コロナ禍の中...
令和3年度
参観デー中止

【参観デー中止・Web
公開デー開催】

今年の参観デーは新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、黒石及び五戸とも中止することになりました。

なお、代替として研究圃場の案内や研究成果などを紹介した「Web公開デー」を9月6日から30日までホームページに掲載しますので、是非ご覧下さい。

来年はコロナも収束し、例年どおり会場で開催できることを願っています。

【おとうと「ジュノハート」
適期収穫・目揃い研修会】

6月21日に津軽1会場、22日に県南3会場にて、おとうと「ジュノハート」普及促進研究会、おとうと「ジュノハート」ブランド化推進協議会の共催で、おとうと「ジュノハート」適期収穫・目揃い研修会を開催、合計で約160名が参加しました。



研修会では、県南果樹部の土嶺研究管理員が多数の報道陣に囲まれる中で、専用カラーチャートを使って適期収穫のポイントを説明しました。また、りんご果樹課から果実見本を用いて出荷規格の説明がありました。



今年は、凍霜害で地域や園地により着果数のばらつきが見られるなど生産への影響が懸念されましたが、生産者の努力に

より、今年も高品質な果実が生産されました。



6月29日の八戸市中央卸売市場での初競りでは最上位等級品の「青森ハートビート」1箱(15粒入り)が昨年より15万円高い45万円、1粒3万円のご祝儀価格でした。また、7月3日の南部町営地方卸売市場での初競りでは「ジュノハート」1箱(20粒入り)が20万円、1粒1万円の最高値でした。



【りんご病害虫マスター
養成講座】

6月16日から始まった病害虫マスターは、8月25日で第6講まで終了しあと3講となりました。本講座は市町村から推薦された若手農業者(本年度は36名)を対象に、主に病虫害部員が講師を務め、病虫害の生態と防除方法、農薬の基礎知識などを解説します。座学の他にも、所内の無防除圃場を観察してもらいながら各病害虫の特徴について説明しました。研修生たちは暑い中、マスクを着用しながら熱心に聴講していました。



【りんご高密植わい化栽培 展示圃巡回検討会】

7月5日に全農あおもり主催のりんご高密植わい化栽培実証展示圃巡回検討会が行われました。当研究所を含め現地6か所を巡回し、その後JATFの森田支店において、主幹延長枝の取扱や適正樹勢などについて意見交換しました。



【インターンシップ】

バングラデシユ出身の国費外国人留学生Hassan氏が、7月中旬に1週間、研究インターンシップとして来所しました。同氏は岩手大学大学院連合農学博士課程2年で、現在は弘前大学農学生命科学部付属生物共生教育研



究センターに在籍しています。博士論文のテーマは「高温・高CO₂環境がりんごの果実品質に及ぼす影響」で、特にりんごの貯蔵について情報を得るため、当所へ研修を希望したとのことでした。

2日目には研究員を対象に、同氏の母国バングラデシユの生活風景や研究内容について、英語で発表会を行いました。簡単な会話は日本語で通じますが、実験などでの説明は英語となり、研究員は四苦八苦しながら対応していました。なお、10月中旬にも再度来所する予定です。

【無人走行車実演会】

7月13日に当研究所圃場で、農業用無人車の実演会が行われました。リモコン操作で薬剤散布を実演したほか、基地局を設置し、走行ルートを設定させると無人で自動走行し、タンクを外すと運搬車として、また人の後を付いてくる追従機能も備わっているとのことでした。農協等の参加者は興味深く見ていました。



【エコ農業チャレンジ塾】

7月27日に「エコ農業チャレンジ塾第2回講座」が行われました。福田栽培部長が「りんごの生理生態と栽培管理技術」、木村病虫害部長が「病害虫防除の基礎・環境に優しい防除資材、IPM技術」について講義しました。



【りんご史料館の薫】

りんご史料館の白壁に這っている蔦は毎年伸びて窓を覆ってしまいうため、高所作業台車と高枝切り鋏で剪去します。へ



【お悔やみ】

りんご研究所OBの岩谷齊氏が8月6日に永眠されました(行年72歳)。同氏は昭和48年化学部土壤改良科に採用され、その後は畑作園芸試験場、りんご試験場、県南果樹研究所センター、農林総合研究所センターなどにおいて、一貫して土壌肥料の研究に邁進し、平成21年から独法化後の最初のりんご研究所長として舵を取り、同23年に退職されました。退職後も再雇用として5年間、土壌肥料に関する研究と後進の指導にあたりました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。